RIDA スクリーン FAST フモニシン

【商品コード：（4341PF】

GIPSA 認証済み（認証番号：FGIS　2001-105）

穀物および飼料中のフモニシンの定量分析に対する競合酵素免疫測定法

フモニシンは、穀類に生育する糸状菌の一種 *Fusarium moniliforme* に産生する毒性の高い代謝物で発ガン性があります。フモニシン類で最も重要なものはフモニシン B1 で、ウマの脳白質軟化症、ブタの肺水腫、ラットの肝癌を誘発する事例があります。しかし、フモニシンが毒性を示す用量は、動物の種により大きく異なり、ウマでは飼料中に 5～10mg/kg で、ニワトリでは飼料中 75mg/kg で発症します。ウシでは高濃度のフモニシンでも影響が少ないようです。フモニシン高濃度汚染のトウモロコシがヒト食道ガンの原因になっている可能性について研究がなされています。これら、明らかになってきた毒性は、トウモロコシ中に発生するフモニシンのレベルで、ヒトおよび動物の健康への潜在的脅威になることを示唆しています。
本試験法は、米国農務省(USDA)の連邦穀物検定局（Grain Inspection, Packers and Stockyards Administration）から、トウモロコシおよびトウモロコシ製品の分析法として認証を受けております。

規格及び試験方法

･フォーマット：

48 ウェル(それぞれ 8 つのウェルを持つ 6 本のストリップ)のマイクロタイタープレート

･ 標準液：

0、0.222、0.666、2、6　mg/kg（ppm）

･ 試料調製：

穀物、麦芽および飼料:　破砕、水抽出、ろ過、希釈

･インキュベーション時間：

15 分

･検出限界（LOD）：

0.222　mg/kg（ppm）

関連製品：

- ･フモニプレップ【4343P】
- ･Trilogy　PuriTox　フモニシン【TC-F120】
- ･RIDA スクリーン　フモニシン【4341P】
- ･RIDA　Quick　フモニシン【4341PQ】
- ･RIDA　Quick　フモニシン RQS【R5606】※RIDA Quick スキャンセット【ZG5005-0】

★取扱説明書、試料調製、その他　資料ご希望の方は、ご遠慮なくアヅマックス㈱にお申し出ください。

http://www.azmax.co.jp/
E-mail：sales@azmax.co.jp

東京営業所　〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630　Fax　03-5543-0312

RIDA スクリーン FAST フモニシン

【商品コード：(4341PF】

抽出、濾過と試験の手順

(注 ： ストリップ 4 本以上を一度に使用しないでください。)

① 破砕した試料 5g を量り採り、25 ml の 70%メタノール液を加える。
(3 分間激しく振とうする。)試料抽出液をろ過。
得られた濾液 0.1mL に蒸留水 1.3mL を加えて希釈。
ウェル当たり 50μL の希釈液を使用。

② 試験するのに十分な数の標準および試料用のウェルをフレームに挿入。

③ 標準液および調製された試料液各 50μL を
それぞれ別のウェルに 50μL ずつピペットで滴下。
各標準液および試料液で別々の新しいピペットチップを使用。

④ 酵素複合体液(赤キャップ)を各ウェルに 50μL 加える。

⑤ フモニシン抗体液(黒キャップ)を各ウェルに 50μL 加える。
10 分間、室温でインキュベート。

⑥ ウェル中の液体を捨て、マイクロタイターストリップをフレームに入れたまま吸水紙(ペーパータオルなど)に 3 回連続して叩きつけ、ウェルの液体をよく除く。
すべてのウェルに 250μL の蒸留水を満たし、同様に液体を捨て、
吸水紙に叩きつけ液体を除く。この操作を2回以上繰り返す。

⑦ 基質/色原体(茶色キャップ)を各ウェルに 100μL 加える。
5分間、室温(暗所)でインキュベート。

⑧ 反応停止液(黄色キャップ) を各ウェルに 100μL 加える。
よく混合して、エアーブランクで 450 nm の吸光度を測定。

http://www.azmax.co.jp/
E-mail：sales@azmax.co.jp

東京営業所 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 1-10-7 Tel 03-5543-1630 Fax 03-5543-0312